

平成26年度JICA課題別研修「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

本研修は今年3年目で、6月26日～8月1日、JISNAS会員大学の協力を得て実施されました。サブサハラアフリカ諸国のうち13ヶ国より15名が来日し、当該国の稲作改善のための課題の把握と解決に向けた研究アプローチについて研修しました。今年度は三重大学と共催し、熊野市の丸山千枚田で我が国の伝統的な棚田と稲作技術を学び、河上市長と地方都市が抱える過疎化と高齢化の現実について意見を交わしました。また、神戸大学の庄司先生が名古屋大学フィールド科学教育センター東郷フィールドの農業機械を使い、技術職員の協力を得て、機械の説明と実演を行いました。弘前から鹿児島に至る全国の協力大学における研修員各自の専門分野に対応した個別研修では、それぞれが指導教員との絆を作り、その絆を基に、研修員の帰国後に受入れ教員が研修員をケニアに訪ね、研修のフォローアップを行うとともに、教員自ら稲作状況を学ぶ機会となりました。また、初年目の研修員と受入れ教員が今年度科研費による海外調査研究を開始したうれしいニュースもJICA中部によるフォローアップ調査の結果分かりました。本研修の目的の一つが達せられた事例となりました。

(浅沼修一)

参加国：ブルキナファソ、カメルーン、コートジボワール、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガーナ、ケニア、モザンビーク、セネガル、スーダン、タンザニア、トーゴ、ザンビア

協力大学：弘前大学農学生命科学部、岩手大学農学部、新潟大学農学部、三重大学生物資源学研究科、京都大学農学研究科、神戸大学農学研究科、島根大学生物資源科学部、高知大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部



手押し除草機の実演を見守る研修員

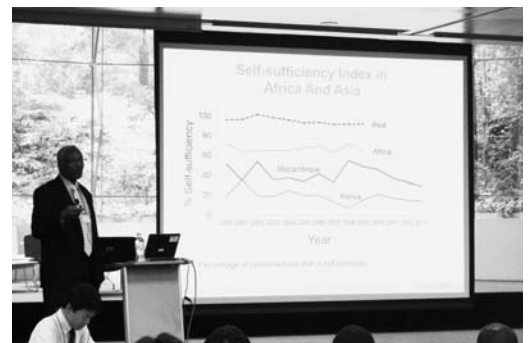


稲作技術の発達を学ぶ研修員

地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 公開シンポジウム「アフリカにおける稲作研究の発展と展望」を開催

名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、2014年7月12日、名古屋大学野依記念学術交流館において、地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 公開シンポジウム「アフリカにおける稲作研究の発展と展望」を開催しました。本シンポジウムの冒頭、国際稲研究所 (IRRI) のイスマイル主席研究員による基調講演が行われ、アフリカの稲作において問題となっている様々な生物的・非生物的ストレスを克服するための品種改良の重要性が指摘されました。続いて、ケニア、セネガル、タンザニアからの参加者により、それぞれの国における稲作の問題解決に向けた研究が行われていることが紹介されました。さらに、名古屋大学が岡山大学、京都大学、島根大学および山形大学との連携の下、ケニア農畜産業研究機構との国際共同研究として実施しているJST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」をはじめ、主にアフリカにおける稲作研究プロジェクトに関する研究報告が行われました。その後行われた総合討論においては、様々なストレスに晒されているアフリカの厳しいイネ栽培環境の克服に向けた研究が新たなサイエンスの創出に繋がる可能性などが議論され、アフリカの問題解決を出口とする稲作研究の重要性が再確認されました。

(楨原大悟)



基調講演を行う国際稲研究所のイスマイル主席研究員